広報 みなみいず
2014
1
No.523

新年に向けての準備
伝統文化を肌で感じて

正月飾りづくり
～南伊豆中学校～

新年のごあいさつ

21世紀 わたしたちの住むまち あなたと造るまち

南伊豆町長 梅本和熙

輝かしき新年あけましておめでとうございます。

町民の皆様方のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。

「本年は午年で景気が馬の背に乗るように跳ね上がる」とか「うまくいく」年だそうです。そのようになることお祈りいたします。

昨年４月21日の選挙で当選の栄に浴し、５月15日に就任してから様々な職務を遂行してまいりました。これまでのご報告と今後の方向性について申し上げます。

１　石廊崎ジャングルパーク跡地等の観光開発

平成15年９月末日の閉園から10年、平成19年３月の提訴から６年が経過し、昨年１月に和解案が提示されました。議会の承認のもとに６月売買予定でありましたが、就任後土地賃貸借問題が浮上し、この問題解決のために売買契約が９月24日までずれ込みました。

今後は、自然を生かした観光のメッカとして新生石廊崎の開発計画を策定すべく、昨年11月22日にワークショップを開催いたしました。

今後もワークショップを継続し、石廊埼灯台、ゆうすげ公園、愛逢岬、池ノ原等石廊崎の広域的な利用計画を検討していただくとともに、パブリックコメント等町内外から幅広いご意見、ご提言をいただき、利用計画を策定してまいります。

２　杉並区特別養護老人ホームの建設

国は都市部の高齢者対策のため、厚生労働省が主導し「都市部の高齢者対策に関する検討会」を立ち上げ、検討会の中で杉並区が南伊豆町に整備を検討している特別養護老人ホーム問題についても検討してくださいました。現行制度では、国民健康保険制度の住所地特例が後期高齢者医療に引き継がれませんが、引き継ぐ方向での検討がなされ、概ね、杉並区と南伊豆町が進める特養整備については、容認の方向であります。今後も諸問題の解決に向け、静岡県及び杉並区等と連携し、協議・検討を重ねてまいります。

３　地熱資源の活用＝再生可能エネルギー

３．11東日本大震災に起因する福島第一原子力発電所の事故以来、原子力発電に対する見直しの機運があります。小泉元首相は、即脱原発を唱えますが、政府は少なくとも原発依存度を減らす方向と思われます。そのような中、風力発電やメガソーラー等の自然再生可能エネルギーを開発する方向が出てきており、当然、地熱発電も取りざたされております。

当町では平成22年度から総務省の「緑の分権改革調査事業」を活用して地熱資源を活かしたまちづくりを模索してまいりました。文献調査や地科学調査及び物理調査等により調査を行ったところ、下賀茂温泉は、加納地区から青野川に沿って下流方向に雨水が混入しながら流動していることが判明いたしました。

その後、平成23年度から24年度に環境省から委託を受けた独立行政法人産業技術総合研究所が「温泉共生型地熱貯留層管理システム実証研究」により加納地区を中心に調査を進め、下賀茂温泉の熱源は南野山深部に中心があると推定されたものの、深部の地熱構造の調査が課題として残りました。

こうしたことを背景に、町では、昨年７月27日に町民全体を対象とした報告会を開催いたしました。これまでの調査の結果報告と今後の方向性として、経済産業省の「地熱資源開発調査事業費助成金交付事業」及び「地熱開発理解促

進関連事業支援補助金」制度を活用して、当町の人口減少や少子高齢化対策として、農林水産業、観光業等新たな産業や雇用の創出に地熱資源を生かしたまちづくりを提案いたしました。

町民の皆様からは、地熱資源を生かした地域活性化については、新たな産業の創出や雇用の確保につながるとの理由から賛意を示すご意見をいただきましたが、地下深部の掘削や地熱発電所の建設による温泉への影響が危惧され、事業実施については否定的なご意見もありました。また、現状の下賀茂温泉について、温泉のスケール対策や温泉の一元管理に関するご提案もいただきました。地熱は石油やシェールガス等と同じ大切な資源であり、南伊豆町の宝と言っても過言ではありません。

直木賞作家である真山仁氏の著書「地熱が日本を救う」、九州大学名誉教授・理学博士・地熱情報研究所代表の江原幸雄氏の著書「地熱エネルギー＝地球からの贈りもの」を読みました。江原名誉教授の著書には「終戦直前の1944年には、静岡県賀茂郡南中村で、九州帝国大学の山口修一博士、小田二三男博士が地熱研究のため掘削を計画しましたが、掘削機械を軍に接収され、実験は行われなかったとの記録があります。」と記載されています。昔から南伊豆町は地熱利用の先進地であることを示すものです。

今後は、地熱資源を生かした地域活性化策における課題や問題点等を十分検討し、熱電併給等によるスマートコミュニティー（地域で賢く電力を使う考え方）・スマートタウン（省資源化を徹底した環境配慮型の町）の建設を目指して、町民の皆様のご理解を得るべく、特に温泉への影響に関する説明会等の開催を計画するなど、町民の皆様との対話を続けてまいりたいと考えております。

4　ワープステイ＝夢を語り合うことのできる町

団塊の世代が75歳に到達する2025年問題をはじめとして、本格的な人口減少社会・少子高齢化社会の到来する20年後、30年後又は、100年後、1000年後の未来を考えた持続可能な社会を構築することが必要であると考えております。ワープステイは都市部のアクティブシニア（社会に対して積極的な行動を起こす新世代シニア）に一定期間、南伊豆町に移住していただく構想です。昨年、ＪＯＩＮ（移住・交流推進機構）で講演の機会を得ました。そのような流れでＪＯＩＮからワープステイの経済効果を調査してくれるとの話がありました。

ワープステイは、ドイツのクラインガルテンの発想（農耕地をいくつかの小区画にして貸し付ける）と類似します。そのような方法で南伊豆町の居住者を増やす施策であり、いずれ町民の皆様の理解を得ながらプラチナタウン（高齢者が思い思いに暮らせるテーマパーク）を建設してまいりたいと考えております。

5　観光問題

２月から３月のみなみの桜と菜の花まつり期間中の菜の花結婚式、夜桜流れ星、夜桜マラソン、５月のツツジ祭り、６月・９月・11月のオープンウォータースイムレース、７月・11月の石廊埼灯台一般開放、10月の伊勢海老まつりの期間中の貸切団体列車「伊勢海老号」等様々なイベントを繋ぎ観光の活性化に努めてまいります。

6　防災対策

防災訓練や備蓄品調達をしながら、防災・減災意識の高揚と現状に即した防災・減災対策の推進を図ることを目的に地域防災計画等を策定いたします。

7　健康福祉センターの建設

高齢化社会の中で健康福祉センターの必要性は論を待ちません。公約でもあり、任期中に建設する決意で臨んでおります。町民の皆様とワークショップ等を通じ議論しながら、使いやすい健康福祉センターを建設いたします。

8　その他

防災・医療・伊豆縦貫道へのアクセス等命の道としての（仮称）一条・稲梓線道路建設期成同盟会の設立や鳥獣被害対策として、里山の整備等の政策も推進していく予定です。

最後になりますが、私の政治信条であります町民参加型町政「町民の町民による町民のための政治」を実現するため「いつでもどこでもミニ集会」も継続して実施してまいります。

一度だけでなく、二度でも三度でも何度でも町民の皆様とミニ集会は開催いたしますのでどうぞ、ふるってご連絡ください。

以上、年頭にあたり、当面する課題や抱負を申し上げました。

本年も旧年以上に変わらぬご支援、ご協力をお願い申し上げ、新年のご挨拶といたします。

南伊豆町長　梅本和熙

12月定例町議会

平成25年南伊豆町議会12月定例会が12月５日から６日まで開催され、「平成25年度土地取得特別会計補正予算について」などが原案どおり可決されました。

行政報告（要旨）

１　石廊崎ジャングルパーク跡地利用

石廊崎ジャングルパーク跡地の売買等に関する損害賠償等請求訴訟は、本年９月24日、９月定例会での財産取得の議決により、当該土地の一部を町が買い取る売買契約が成立し、同日付けで所有権移転登記が完了したことにより終了しました。

町では、取得した土地の利用計画を策定するため、町民参加型町政の手法としてワークショップによる検討手法を選択し、公募により選任した町内外の14人の方を含めて町民、有識者など35人のメンバーによる第１回ワークショップを11月22日に役場湯けむりホールで開催しました。

ワークショップでは、町職員から当該土地の概要や文化財保護法の説明に加えて、環境省下田自然保護官事務所の浜自然保護官から自然公園法の説明、千葉大学大学院の木下教授からワークショップについての講演をいただき、利用計画を策定する上での基礎知識について情報の共有化を図りました。

今後は、ワークショップを継続し、具体的な利用計画について検討するとともに、パブリックコメントの導入など町内外から幅広い御意見や御提言などをお伺いしながら利用計画を策定してまいりたいと考えております。

２　地熱資源の活用

町では、地熱資源を生かしたまちづくりを検討中で７月27日に町民全体を対象とした報告会を開催し、これまでの調査の結果報告と今後の方向性として、経済産業省の農林水産業、観光業等新たな産業や雇用の創出など地熱資源を生かしたまちづくりを提案いたしました。

その後、９月17日と29日に観光・商工、福祉・介護、農林漁業、源泉所有者、加納・下賀茂地区の５つの分野ごとに座談会を開催し、さらに10月２日、町民全体を対象とした報告会を開催し、多くの町民の御意見や御提案をいただきました。

地熱資源を生かした地域活性化については新たな産業の創出や雇用の確保につながるとの理由から賛意を示す御意見をいただきましたが、地下深部の掘削や地熱発電所の建設による温泉への影響が危惧され、事業実施については否定的な御意見もありました。

現時点では、町民の皆さまの合意が得られたとは言い難いと判断し、経済産業省の補助金については、本年度の申請を見送ることにいたしました。

今後は、地熱資源を生かした地域活性化策における課題や問題点等を十分検討し、町民の御理解を得るべく、特に温泉への影響に関する説明会の開催を計画するなど、町民との対話を続けてまいりたいと考えております。

３　防災対策

(1)　防災訓練

12月１日、静岡県下一斉の地域防災訓練が実施されました。

町内においては、各地区自主防災会が避難訓練、自主防災会本部設営訓練、初期消火訓練、資機材の操作・点検、ＡＥＤ講習会、防災講座等を実施しました。

このほか、新規の取組として石廊崎地区、手石地区、一条地区、岩殿地区、吉祥地区、東子浦地区、妻良地区の７地区、約754世帯を対象に黄色いリボン作戦を実施しました。

この作戦は、災害時に“「わが家は大丈夫、避難しました」「他の人を助けてほしい」”という目印として、道路から見える場所に黄色いハンカチやリボンを掲げ、安否確認を短時間で容易に行うものです。

今後も防災・減災意識の高揚と現状に即した防災・減災対策を進めてまいります。

(2)　備蓄品調達

毎年、継続実施している備蓄食料につきましては、本年度11,000食の備蓄食料及び非常用飲料水として２リットルペットボトル11,000本を新たに購入しました。

4　経済対策等

(1)　トップセールス

町長以下４人で10月３日から６日までの４日間、来年開催される「みなみの桜と菜の花まつり」を中心に、台湾エージェントへのトップセールスを実施してまいりました。

初日は、静岡県台湾事務所、山富国際旅行社、華旅国際旅行社、理想旅遊の３社を訪問し、当町の旅行商品についてセールスを行いました。続いて、台湾オリンピック委員会及び台湾成人遊泳協会を表敬訪問してまいりました。今後は、７年後に東京で開催されるオリンピックでの練習候補地として、誘致に向けた取組を進めてまいりたいと考えております。

二日目は、台湾北端にあります「野柳ジオパーク」を視察してまいりました。野柳周辺に宿泊施設はありませんが、駐車場前の食堂、売店には活気があり、今後、整備計画が進む「石廊崎」、「奥石廊崎」の整備に関して、非常によい手本となる場所であると認識したところであります。

今回のトップセールスで得た情報を分析し、今後のインバウンド事業に結び付けてまいりたいと考えております。

国内においては、11月11日、横浜市内で旅行業関係者約100人が一堂に会して開催された「ＪＲ東日本温泉いっぱい花いっぱいセミナー」に、町内ホテル・旅館の関係者とともに参加してまいりました。

これからシーズンとなる「みなみの桜と菜の花まつり」の中でも、昨年度からはじめた「夜桜流れ星」を中心に、旅行エージェントに対して、誘客宣伝を実施してまいりました。

(2)「伊勢海老号」の運行助成

昨年度に引き続き、「伊勢海老号」の運行事業を支援しました。

10月19日、20日の両日、町内のホテル、旅館に宿泊し、町内観光施設及び「フェスタ南伊豆会場」等を巡るもので、当初280人の募集を行いましたが、募集を上回る申込みがあり最終的には300人の方が当町を訪れました。

今後の誘客にも大いに効果があったものと考えております。

(3)　有害鳥獣対策

本年度は、町内での有害獣による農作物等への被害報告が近年になく増加しており、補助金及び報償金ともに10月末現在で既に昨年の年間実績を超えております。

このような状況の中、下田市との広域的な猿の捕獲駆除を進めているところであり、現在、テレメトリーを装着する猿を捕獲し、早期に駆除できるよう、その準備を進めているところです。

今後とも、静岡県や周辺市町及び地元猟友会等と連携を図りながら、有害獣等の被害防止対策に取り組んでまいります。

5　イベントの開催状況及び観光客入込状況

(1)　石廊埼灯台一般開放

７月13日、14日、11月３日の三日間、石廊埼灯台の一般開放が行われました。７月、11月とも天候に恵まれ、延べ1,926人が訪れ、灯台の上から360度見渡せる風景に訪れた皆様から歓声があがっておりました。今後は、海上保安庁や社団法人燈光会及び関係団体と連携を図りながら、年間を通して一般開放が実施できるよう検討してまいりたいと考えております。

(2)　ウォータースイムレース等の実施状況

９月１日、弓ヶ浜海水浴場において、第３回国際マスターズオープンウォータースイムレースが開催され、171人の参加があり、内85人の方に町内へ宿泊していただきました。この中には、招待選手として台湾、韓国、アメリカ、イギリス、ドイツ、スウェーデン、オーストラリアの７カ国からの選手17人も含まれております。

また、前日の31日には、前夜祭「黒潮ウエルカムファンクション」を開催し、参加者の歓迎にあたりました。

10月13日には、同海水浴場において、第４回南伊豆・弓ヶ浜アクアスロン大会が開催され、関東圏を中心に、大阪・長野・愛知県等日本各地から集まった182人の選手が海上1.5㎞ コースを泳ぎ、続いて砂浜の白と松林の緑のコントラスト豊かな海岸通りを３周する陸上4.5㎞コースを駆け抜けました。今年度で、当町でのオープンウォータースイムレース等の開催は４年目となり、参加者の状況などから、着実に大会が定着しつつありますので、今後とも継続開催に向けて努めてまいります。

(3)　南伊豆婚カツ

町では、９月14日から１泊２日の日程で、静岡県の「子育て理想郷“ふじのくに”地域モデル事業」を活用して、未婚率の低減や地域の活性化を図ることを目的とした「南伊豆婚カツ」事業を町商工会に委託して実施しました。

独身で町内に在住又は在勤する男性35人と、独身の女性35人が参加しました。

婚活事業は、移住・定住施策とも深く関連しており、地引網や海女体験など、南伊豆町をより肌で感じていただくための取組みを盛り込みました。生活習慣や職の一部を体感していただいたことで、カップリングに成功し、結婚後、南伊豆町に住むことへの期待感や安心感を醸成することができたと考えております。

観光施設等の入込状況（４月～10月）

区　　分	平成25年度(人)	平成24年度(人)	前年度比(%)
宿泊施設	129,373	133,202	97.13
観光施設	86,753	82,179	105.32
温泉施設	67,988	67,261	101.08
合　　計	284,114	282,642	100.52

(4) 第10回フェスタ南伊豆

10月20日、役場駐車場を会場に、「第10回フェスタ南伊豆」が開催され、あいにくの天気にも関わらず約1,000人もの来場者で賑わいました。雨天のため出店数は減少しましたが、塩尻市の高原野菜や果物等の販売、産業団体の地場産品等の販売、健康相談、福祉施設の紹介、お楽しみ抽選会など幅広い交流活動が盛大に行われました。

さらに、「伊勢海老号」による観光客のうち約250人がバス５台で来場され、伊勢海老の味噌汁サービス、地場産品の販売等の各ブースを巡りながら本町ならではのイベントを満喫していただきました。

(5) 杉並区での物産展及びキャンペーン開催

７月８日の杉並区役所での南伊豆町物産展開催に続き、11月９日、10日に開催された「すぎなみフェスタ2013」に出展し、伊勢海老の味噌汁をふるまい、「伊勢海老まつり」、「みなみの桜と菜の花まつり」のキャンペーンを実施しました。

今後とも、杉並区の各種イベントに積極的に参加するとともに、「杉並区民号」をはじめとする民間交流の拡大も図ってまいりたいと考えております。

(6) 観光客等入込み状況について

４月から10月までの観光客等の入込み状況がまとまりましたので、報告いたします。

6 杉並区との自治体間連携

(1) 杉並区南伊豆健康学園跡地に係る津波対策等検討委員会

南伊豆健康学園跡地を利用した特別養護老人ホームの整備については、厚生労働省における「都市部の高齢化対策に関する検討会」において、「本整備計画が、地域コミュニティや自治体間のつながりの強い場合の事例として、今後、特別養護老人ホームの設置に向けて、東京都・杉並区・静岡県・南伊豆町間で、より具体的な調整を進めていく中で、東日本大震災の教訓を踏まえて、地震・津波等の災害に万全を期すこと。」とされました。

整備予定地は、静岡県第４次地震被害想定による地震、津波による人的・物的被害想定地域のため、被害想定に基づいた災害対策を検討し、施設の安全を確保することを目的とし、杉並区において「杉並区南伊豆健康学園跡地に係る津波対策等検討委員会」が設置されました。

本町におきましても、当該津波対策等検討委員会に、防災室長、健康福祉課長２人を委員として参画させ、地震に耐え、十分な強度を持った安全・安心な施設整備に向けて協議してまいります。

(2) 特別養護老人ホーム整備に係る厚生労働省への要望

９月12日に静岡県健康福祉部長、杉並区長及び南伊豆町長で当該特別養護老人ホーム整備を進めるうえで、国の支援をお願いするため厚生労働省の老健局長、保険局長及び関係課長を訪問し、現行制度では、国民健康保険制度の住所地特例が後期高齢者医療制度に引き継がれないことについての法令改正・老人福祉圏域を越えた施設の入所をしやすくなるような仕組みづくりの技術的支援の２点について要望してまいりました。

９月20日に開催された「都市部の高齢者対策に関する検討会」においては、「杉並区と南伊豆町が住民同士のつながりが深く、両自治体での自治体連携が進んでいる背景のもと、地震・津波対策等災害への対応に万全を期し、入所者本人の意思を尊重し、双方の自治体の介護保険事業計画、両都県の介護保険事業支援計画に明記することが最低限必要である。」という条件下ではありますが、杉並区と南伊豆町が進める特養整備については、容認されたものと考えております。

今後、施設の形態、入所定員等について、静岡県の指導、支援を受けながら、東京都とも連携し、特養整備に向け努力してまいります。

(3) 杉並区町会連合会との交流

南伊豆町と杉並区は、昭和49年に開校した南伊豆健康学園から交流が始まり、さらに昨年９月14日に締結した災害時相互援助協定により、一層結びつきの強いものとなりました。

このような中、10月24日に杉並区の町会連合会一行29人が来町され、役場湯けむりホールにおいて、南伊豆町区長連絡協議会と地域コミュニティ活動について意見交換が行われました。

今後、防災・観光だけではなく、杉並区の特別養護老人ホームの整備等を契機に、さらに交流の輪が広まるものと期待しております。

7 静岡県市町対抗駅伝競走大会

11月30日、第14回市町対抗駅伝競走大会が開催されました。

本年度は、新監督として桐原健造氏に就任していただき、新体制ではじまりました。

大会結果については、２時間30分47秒で、町の部12チーム中、８位と順位を昨年より伸ばし、敢闘賞をいただきました。

夏から長期にわたりご指導いただきました監督や指導者の皆様に、厚く感謝申し上げるとともに、関係者、励まし支えてくれた保護者やご家族の方々、そして、最後まであたたかい応援をしてくださった町民の皆様に、重ねて厚くお礼申し上げます。

石廊崎ジャングルパーク跡地利用計画策定ワークショップ通信

No. 1

問合せ　企画調整課
☎６２－６２８８　FAX６２－１１１９
E-mail：kikakuc@town.minamiizu.shizuoka.jp

第１回石廊崎ジャングルパーク跡地利用計画策定ワークショップを開催しました。

ワークショップ　スタート

岩崎産業株式会社との裁判が終わり、石廊崎ジャングルパーク跡地の一部が町の土地になったことから、利用計画策定のため、11月22日（金）午後６時30分から午後９時00分まで、役場湯けむりホールで、公募者を含む総勢30人で第１回ワークショップが開かれました。

ワークショップ設置要綱の説明のあと、当該場所は和解により取得した土地です。そのため、いくつかの条件があることや、自然公園法や文化財保護法による法規制が厳しいことから、町企画調整課から裁判の経過・和解条件の説明、環境省自然保護官から自然公園法の説明、町教育委員会事務局から文化財保護法の説明があり、続いて千葉大学大学院木下勇教授がアドバイザーとして参画し、ワークショップの意義や手法等についての講義のあと、グループごとに討議を行い、石廊崎にかけるそれぞれの思いを発表し合いました。

グループ討議・発表の様子

A　何もないからすごいといった視点や、ヤオヨロズの神々が棲む岬として、石室神社伝説などのロマンを生かして自然を守り、音楽イベント広場など、リピーターも含めて人が寄れ、地元の売り上げも上がり、滞在できる場所としたい。

B　海から見た花咲く石廊崎を理想とし、駐車場をつくりジオを売りに、石室神社や白水城址を活用して、上と下がバランスよく発展してほしい。

C　駐車場やトイレ、食事場所など最低限の施設をつくり、景観を生かして子供も大人も年配の方も誰でも楽しめる場所としたい。

D　ジャングルパーク閉園の原因を参考にして、自然・ジオパークを活かしつつ、道路をつくり、情報発信し、雇用促進、交流人口の増加につなげたい。

E　ランニングコストが低い、持続可能な自然を生かしたイベントを企画して、観光につなげ、産業発展、雇用促進を図りたい。

全体意見交換

意見：ワークショップの手法は素晴らしい。これだけ大人数の意見を聞く手法としては最適。

質問：自然のままという意見を整理して何とかしたいという意見があり、ギャップがある。

回答：人に来て貰いながらも自然が保たれる従来とは違う英知が必要。自然を学ぶこと、子供に自然の重要さを教える、地域の人たちが誇りに思うこと、環境維持していくこと、環境を学ぶ仕掛けをつくること、ギャップを埋める装置をつくるなどを検討していく必要があります。

次回は、12月20日午後１時30分から石廊崎の現地視察をしながらワークショップを開催します。

利用計画の提案募集

町では、石廊崎ジャングルパーク跡地の利用について、ワークショップ以外の方法でもご提案やご意見を募集します。様式等は問いませんので、氏名、年齢、住所、電話番号を記載のうえ、ご提案をお寄せください。（メール、FAX可）募集期限 平成26年１月31日（金）提出先 企画調整課（上記問合せ先まで）

野外焼却（野焼き）は、下記以外の行為は原則禁止されています

1. 農林業者が、農業または林業の作業に伴って行う燃焼行為
（ただし、プラスチック類、ゴム類、合成樹脂・油類を含まないものに限る）
2. 防災訓練または消防訓練に伴う燃焼行為
3. 地域的慣習による催事または宗教上の儀式行事に伴う燃焼行為

Q & A

Q１　家庭ごみをドラム缶などで燃やすのはだめですか？
A１　禁止です。家庭から出たごみは可燃ごみとして、ごみの集積場所へ出してください。

Q２　田、畑から出る雑草を燃やすことはダメですか？
A２　例外規定としての取扱いになりますが、草を乾燥させないで焼却すると、白煙が多量に発生して苦情の原因となります。草を乾燥させてから、風のない日に少しずつ燃やすなど、周囲に迷惑がかからないように十分注意し、必要最小限に止めましょう。

Q３　一般家庭での例外規定はどのようなものがありますか？
A３　軽微な焚き火（庭先に落ちた木の葉や枝の焼却）、風呂焚き、バーベキュー、キャンプファイヤーなどが該当します。

※野外焼却が例外として扱われる場合であっても、近隣住民から健康被害や環境被害の申出があった場合は、行政指導の対象となりますので、ご了承ください。
※野外焼却に対する問合せ先は、町民課　生活環境係（℡６２－０５０８）です。
その場合、屋外焼却の状況についてお聞きします。（焼却している場所、焼却しているもの、焼却している人等。）また、連絡者の氏名、住所、電話番号についてもお聞きしますので、ご了承ください。（焼却している者に対し、連絡者の氏名等を教えることはありません。）
※産業廃棄物（事業活動に伴って生じた廃棄物のこと。）の焼却や常習性（複数回の行政指導にも従わず焼却を繰り返すこと。）がある等、悪質な場合は、警察に連絡してください。

問合せ　町民課生活環境係　☎６２－０５０８

町の宣伝部長　誕生！！

その名は『いろう男爵（だんしゃく）』

この度、町ではジャングルパーク跡地の問題が解決し、石廊崎再生元年として石廊崎の再生を図り、町内全体の活性化を目的として、石廊埼灯台をモチーフにしたマスコットキャラクター『いろう男爵』を製作しました。
今後は、様々な場所やイベント等に積極的に参加し、町の宣伝活動を行っていきますのでどうぞよろしくお願いします。
詳細は、町ホームページをご覧ください。
http://www.town.minamiizu.shizuoka.jp/

問合せ　企画調整課　☎６２－６２８８

南伊豆町宣伝部長　いろう男爵

梅本町長のミニ集会

〔10月　ジオガシ旅行団、若手移住者分〕

町長が、町民の皆様のところに出向いて、まちづくりに資するための提言･提案等をお伺いする「ミニ集会」を開催しています。皆様からいただいたご提言・提案等の一部をご紹介します。

意 見 ■いろう男爵の着ぐるみ等は作らないのか。また、作るのであれば、いろう男爵に対するストーリーがあると良いと思うのだが。
回 答 ■石廊崎が再オープンする時にお披露目しようという案があり、若手職員を中心に現在検討している。

意 見 ■観光案内の手法として、タクシーにボランティアガイドが同乗できないか。
回 答 ■運転手自体もボランティアガイドが行うなど、具体的な運営策が決まれば陸運局に問い合わせ、どこまで許されるかなど色々検討できる。

意 見 ■認定ジオガイドが町民向けにガイドすることも必要だと思うが。
回 答 ■実施するのであれば、広報誌で人集め等に協力する。

意 見 ■ジオポイントにトイレを整備してほしい。また、立地が悪く、人目に触れていないジオサイトの看板については改善してほしい。
回 答 ■検討する。

意 見 ■青市の野辺口辺りの耕作放棄地を圃場整備してほしい。
回 答 ■まずは地権者の合意が必要となる。

意 見 ■地熱を活用した大規模なハウス事業は、初期投資が掛かるし、作物の価格もＴＰＰ交渉によっては不透明だ。リスクが大きいと思うが。
回 答 ■ハウス整備は、民間企業の資本でやってもらうことを考えている。

意 見 ■寺子屋を開設して、地域の学力向上を図っては。講師に東大生を利用しては。
回 答 ■教育委員会に伝える。

意 見 ■数日間、町に滞在し、農業体験等ができるシステムが築けないか。
回 答 ■ワープステイという考え方がこれにあたる。体制づくりの可否を含め、勉強会を実施している。

意 見 ■海を綺麗にするために、化学洗剤ではない物の奨励や、安価での販売等をしてみては。下水道事業に投資するよりも低コストだと思う。
回 答 ■町が特定の商品を奨励することはできないが、環境関係のＶＴＲを役場ホール等で上映するなど、どんどん啓蒙してほしい。

受付中　梅本町長のいつでもどこでもミニ集会

対 象 者　原則として町内にお住まいで、２名以上のグループ
申込方法　開催する２週間前までに総務課総務係へ申し込みを行ってください。
開催場所　どこへでも出向きます。（自宅や公民館、役場など）
注意事項
①皆様の希望日時に合わせて日程調整をします。しかし、職務等の都合上、ご希望に添えない場合もあります。
②まちづくりに資するための提言・提案等を受けるものであるため、要望はご遠慮願います。
③内容によっては、その場で回答できない場合もあります。
④申込内容によっては、ミニ集会をお断りする場合もあります。

問合せ：総務課総務係　☎６２－６２１１

民生委員・児童委員さんを紹介します

任期満了に伴う民生委員・児童委員の改選が12月１日に行われ、28人の方が厚生労働大臣から委嘱されました。任期は平成28年11月30日までの３年間で、地区の身近な相談役として福祉の向上を図るため、ご尽力していただきます。

石廊崎	大　瀬	下　流	手　石	湊(山側)	湊(海側)	青　市
小澤邦子	菊池由江	平山敬子	大年清一	岩田喜美子	臼井善吾	杉野俤二

石井・上賀茂	加　納	二　條	下賀茂(東側)	下賀茂(西側)	一　條	市之瀬・蛇石・平戸
小塚健次	小澤すえ子	鈴木良子	渡邊芳男	吉沢かね子	清水　登	佐藤茂子

青野・川合野	下小野	上小野	毛倉野・岩殿	入間・差田	吉　祥	中　木
山田恒策	村田鶴男	廣田　理	鈴木　勇	山本　昇	金子　勲	髙野　馨

妻良・立岩・吉田	東子浦	西子浦・落居	伊浜・一町田	天神原	全地区(児童委員)	全地区(児童委員)
簾田晴彦	渡辺源彌	田中　強	井手伸二	髙橋秀雄	比野下富子	臼井嘉代子

民生委員・児童委員の仕事

問合せ　健康福祉課　福祉介護保険係　☎６２－６２３３

相談活動　地域住民が抱える問題について相談に応じます。

情報提供活動　社会福祉の制度やサービスについて、内容や情報を提供します。

連絡情報活動　住民が必要応じた福祉サービスが受けられるよう関係行政機関に連絡し、必要な対応を促すパイプの役割を果たします。

調整活動　福祉需要に対応し、適切なサービスの提供が図られるように支援します。

11／30 市町対抗駅伝 敢闘賞

一斉にスタートする各市町の代表選手たち

第14回静岡県市町対抗駅伝競走大会が静岡市内で開催されました。南伊豆町代表チームは、町の部12チーム中８位で、記録は２時間30分47秒でした。当日は各選手とも自己ベストを更新し、最後まで全力でたすきを繋いでくれました。

11／22 ワークショップ開催！

ワークショップ講師の木下勇教授の説明を聞く参加者ら

第１回石廊崎ジャングルパーク跡地利用計画策定ワークショップが公募者を含む総勢31名で開催されました。参加したメンバーは、自己紹介を兼ねて石廊崎への思いを発表し合いました。

11／30～12／1 日本酒を海底へ

陸から海底へ沈めるための作業を行う関係者

中木において、海底に日本酒を約半年間沈めて熟成させる作業が行われました。全国の蔵元15社から東京の民間会社が預かった約3,000本の日本酒を沈め来年６月頃に引き上げられ販売される予定です。

12／3 東小から大島災害義援金

東小学校の児童たちから義援金を受けとる梅本町長

10月16日、台風26号により、伊豆大島を中心に被害を受けた住民への支援を行うため、南伊豆東小学校企画委員会児童たちが梅本町長を訪問し、義援金33,545円を預託しました。

12／5 奥石廊のココスヤシ冬支度

ヤシのコモ掛け作業を行う作業員ら

奥石廊のココスヤシは県道沿い２㎞ の間に320本植栽されており、そのうち約50本に冬場に吹き付ける潮を含んだ強い西風から葉や新芽を守るためのコモが掛けられました。

図書館だより

開館時間　8:30～17:15
休 館 日　月曜日・木曜日・祝日
☎ 62－7100　ＦＡＸ 62－1402

今月のおすすめ

利権の復活
古賀茂明著/ＰＨＰ研究
使われるメディア、騙される国民。安部人気の背後で官僚・族議員が焼け太る。私たちの不安を煽り、進んで利権の片棒を担がせる催眠療法。

独走
堂場瞬一著/実業之日本社
「金メダル倍増計画」を掲げ莫大な予算でアスリートを管理育成する国。現代スポーツ界が抱える様々なテーマを内包して物語は疾走する。

里山資本主義
藻谷浩介著/角川書店
仮題先進国を救うモデル。その最先端は“里山”にあった！危機を乗り越え未来を生む、すり潰されない生き方を提言！

村上海賊の娘　上下
和田竜著/新潮社
和睦が崩れ、信長に攻められる大阪本願寺。海路からの支援を乞われた毛利。成否は“海賊王”村上武吉の帰趨にかかっていた。

どっこい大田の工匠たち
小関智弘著/現代書館
先進技術立国ニッポンの飛躍を支える東京・大田。伝統を受け継ぎ、いまの技に挑む、小さな工場の夢ある工匠たちの物語。

原発ホワイトアウト
若杉冽著/講談社
再稼動が着々と進む原発・・・・・しかし日本の原発には、国民が知らされていない致命的な欠陥があった！現役キャリア官僚のリアル告発ノベル。

やまんば
市原悦子著/春秋社
女優市原悦子と、監督、演出家など芝居に関わりある人々との興趣尽きない対談が満載。日本の芸道の光と影、その魅力とは・・・。

暗殺者たち
黒川創著/新潮社
漱石の未確認原稿発掘！日本人作家がロシア人学生に語りだす、20世紀初頭を生きた「暗殺者」たちの真実。動乱の日本近代史を物語る。

甘いもんでもおひとつ
田牧大和著/文藝春秋
小さな菓子所藍千堂を切り回す兄弟に訪れる様々な難問奇問。季節季節の菓子に見立てて見事解決。大江戸スイーツ切り貼り屏風。

言葉が立ち上がる時
柳田邦男著/平凡社
いのちの息づかいを映す言葉は、どこから生まれてくるのか。社会問題・医療問題に対峙しつづけた著者による「いのちの言葉」の査察と探求。

ー新着図書案内ー

文化を育むノルウェーの図書館	マグヌスセン矢部直美
ママまた離婚するの！？	新川明日菜
ズボラでも血糖値がみるみる下がる57の方法	板倉弘重
私のエプロン図鑑	森南海子
ごはんのおやつ	米本かおり
子どもが変わる怒らない子育て	嶋津良智
犬の言いたいたくさんのこと	中村多恵
私の教え子ベストナイン	野村克也
黄昏の旗	朱川湊人
東京バビロン	新堂冬樹
共震	相場英雄
たからもの	北原亞以子
明治・妖(あやかし)モダン	畠中　恵
まほろ駅前狂騒曲	三浦しをん
名もなき日々を	宇江佐真理

平成25年のベストリーダーは？

平成25年、最も多くの方に読まれた本は何でしょうか？恒例の年間ベストリーダーを発表します。

★フィクション
1位　海賊と呼ばれた男（上下）　百田尚樹
3位　色彩を持たない多崎つくると彼の巡礼の年　村上春樹
4位　舟を編む　三浦しをん
5位　蛍　草　葉室　麟
　　麒麟の翼　東野圭吾
　　欠　落　今野　敏

★ノンフィクション
1位　石垣りん　思潮社　刊
2位　青山ファーマーズマーケット畑レシピ　青山ファーマーズマーケット
3位　大人の流儀3　伊集院静
　　ピーことば　ピーコ
5位　人生はあきらめるとうまくいく　ひろさちや

健康レシピ

タンドリーチキン

ここがポイント！

ヨーグルトにお肉を漬け込むことによって、軟らかくなります。

南豆味会

▷ **材料／２人分** ◁ （１人分エネルギー232kcal、塩分0.6g）

鶏もも肉……140ｇ
玉ねぎ……30ｇ
にんにく……１かけ
塩・こしょう……少々
オリーブ油……大さじ1/2
A
プレーンヨーグルト……大さじ４
ケチャップ……大さじ１
カレーパウダー……小さじ１

▷ **作り方** ◁

①鶏肉は広げて十字に包丁を入れて、４等分にする。
②にんにくはすりおろし、玉ねぎはみじん切りにする。
③鶏肉に塩・こしょうを振り、ビニール袋にＡと材料全部を入れてよく揉みこむ。
④熱したフライパンにオリーブ油をひき、タレごとお肉を焼く。蓋をして中火で両面、中に火が通るまでじっくりと焼く。

南伊豆町地域おこし協力隊

地域おこし奮闘記

みなみいず暮らし現地セミナー

移住希望者を南伊豆町にご招待

定員を超える17名の方が参加

地域おこし協力隊の任務のひとつに移住・定住の促進というものがあります。南伊豆町では、ＮＰＯ法人「伊豆未来塾」と役場企画調整課が、移住希望者を対象に、「みなみいず暮らし現地セミナー」というイベントを年に数回開催しており、私も隊員としてお手伝いさせてもらっています。南伊豆町への移住をＰＲするために、首都圏の方々を南伊豆町へ招き、町の概要説明や空き家の紹介、時には農業体験や工芸体験をしてもらい、生の南伊豆町を感じてもらうイベントです。これまでに、このセミナーがきっかけで移住された方も多くいます。

そして、先月14日には"移住者の暮らしぶり"をテーマにしたセミナーが開催されました。実際の南伊豆町での生活の営みを感じていただくため、有機農家やパン屋さんなど、移住者宅を訪問。南伊豆町での暮らしを肌で感じ、移住生活をイメージしていただきました。夕方には弓ヶ浜のコテージに移動し、移住者家族や町・県の行政、スタッフも一緒になって参加者との交流会。有機野菜やキンメのアクアパッツァなど南伊豆町の幸を堪能しながらの賑やかな催しに。この日うちに住まいを決めたご家族もいて、今回も有意義なセミナーとなりました。（隊員　山之内）

お知らせ

伊豆大島等台風26号災害東京都義援金受付について

日本赤十字社では、平成25年10月16日台風26号により東京都伊豆大島を中心に被害を受けた住民への支援を行うため、下記のとおり義援金の受付を行っています。皆さまのあたたかいご支援をお願します。

受付期間

１月31日(金)まで

義援金受付

①郵便振替口座

口座番号　00160－5－695434
加入者名　日赤東京都支部伊豆大島台風26号災害義援金

※ゆうちょ銀行・郵便局窓口での取り扱いの場合、振替手数料は免除されます。

※受領証を希望される方は、通信欄に「受領証希望」のご明記をお願いします。

②銀行振替口座

ア）銀行名　みずほ銀行　新宿支店
口座番号　普通預金　2343039
加入者名　日本赤十字社東京都支部支部長　猪瀬直樹(いのせなおき)

※同一金融機関の本支店間の振込手数料は無料となること。(ＡＴＭ可)

※受領証発行をご希望される場合は、(※(３)お問い合わせ参照)にご連絡をお願いします。

イ）銀行名　三井住友銀行新宿支店
口座番号　普通預金　4421250
加入者名　日本赤十字社東京都支部支部長　猪瀬直樹(いのせなおき)

③持参する場合

受付場所　日本赤十字社静岡県支部及び県内の赤十字病院・血液センター、各市区町の日赤担当窓口(健康福祉課)

※誠に申し訳ありませんが、土日祝日は受付を行っていません。

問合せ　日本赤十字社東京都支部
〒169－8540　東京都新宿区大久保１-２-15　振興部赤十字社員課義援金担当者　あて
☎０３－５２７３－６７４３
FAX０３－５２７３－６７４９

災害時に備えて非常持出袋に「歯ブラシ」を

災害時にからだの健康を守るためには、うがい、手洗いとともに「歯みがきや入れ歯の手入れなどの口腔ケア」がとても重要になってきます。

過去の災害では、口腔ケアが十分にできず、虫歯や歯周疾患で悩む人も少なくありません。特に、歯周病菌は歯ぐきの毛細血管から侵入し、体内に入り全身を巡ると動脈硬化や糖尿病、脳梗塞、心筋梗塞、肺炎などを発症・悪化させる恐ろしい口腔疾患です。また、高齢者は口の中で繁殖した細菌が気管に入ることで誤嚥性肺炎になる危険も高くなります。

災害発生直後の避難所生活では、様々な口腔ケア用品が不足します。

非常持出袋に「歯ブラシ」など自分の口腔ケアに必要なものを入れておきましょう。

問合せ　健康福祉課健康係
☎６２－６２３３

○お詫びと訂正○

広報お知らせ版12月15日号年末年始の役場の業務内での誤りについてお詫びして訂正いたします。

銀の湯会館　休館日

×　１月６日(月)、１月７日(火)

↓

○　１月７日(火)、１月８日(水)

下田高校南伊豆分校農芸祭のご案内

日頃の学習成果の発表や農産物販売、品評会を実施します。皆さまお誘い合わせの上、ご来校ください。

日程・内容

・１月31日(金)　13:00～15:00
校内発表、農産物品評会審査

・２月１日(土)　９:00～14:00
一般公開・販売・品評会

＊現在、一般の方々からも農産物品評会への参加者を募集しています。丹精込めて栽培した農産物を出品してみませんか。

問合せ　南伊豆分校（石井58）
☎６２－０１０３
FAX６２－２７９９

１月10日は「110番の日」

・110番は、緊急通報専用電話です。
・事件、事故や不審者の情報は、すぐに110番通報してください。
・通話中でも、現場にパトカーなどが向かっています。落ち着いて会話してください。

＊警察への要望や相談は、お近くの交番・駐在所または下田警察署(☎２７－０１１０)、相談専用電話「＃９１１０」にお願いします。

うまい話には裏がある！　利殖勧誘詐欺多発中!!

依然として後を絶たない利殖勧誘詐欺、県内では12月２日までに101件、７億3,164万円の被害があり、昨年と比べても被害件数は＋63件、被害額は＋３億6,430万円と急増しています。(速報値)

未公開株や社債、外国通貨、水資源の権利等の購入を勧誘するパンフレットが届き、数日後に『パンフレットは届いていますか？』などと電話がきて、儲け話を持ちかけお金を要求してきます。下田警察署管内でも発生していますので、他人事と思わずに危機感を持ちましょう。

～利殖勧誘詐欺の電話でよく使われる言葉～

必ず儲かります　あなたが選ばれました　高値で買い取ります
謝礼を支払います　名義を貸して下さい　代わりに購入して下さい　など

問合せ　下田警察署管内防犯協会　☎２７－２７６６

横浜市少年自然の家南伊豆臨海学園 嘱託職員募集案内

横浜市少年自然の家南伊豆臨海学園の指定管理者である公益財団法人横浜市体育協会の嘱託職員を募集します。

採用職種・人数　看護師・主事　若干名
業務内容　看護師／利用者の怪我、発病時対応、施設運営
主　事／利用者対応、カッター訓練・野外活動指導等
応募資格　看護師／看護師資格を有する方
主　事／高等学校以上を卒業、または平成26年３月末卒業見込みの方
試験日時・内容　書類選考後、２月３日(月)面接試験
雇用期間　平成26年４月１日～平成27年３月31日(更新の可能性あり)
応募方法　履歴書（写真貼付）を申込先へ郵送してください。
応募締切　１月20日(月)必着
申込み・問合せ
＜書類送付先・採用全般について＞
〒231-0015　横浜市中区尾上町六丁目81番地　ニッセイ横浜尾上町ビル２階
公益財団法人横浜市体育協会　総務課採用担当　☎０４５－６４０－００１１
URL:http://www2.yspc.or.jp/ysa/
＜業務内容について＞
〒415-0532　南伊豆町子浦1437　横浜市少年自然の家南伊豆臨海学園
☎６７－０２５５

姉妹都市だより　長野県塩尻市

塩尻の冬の風物詩 奈良井宿アイスキャンドル祭り

塩尻市では、寒さが一段と厳しくなるこれからの季節に、「奈良井宿アイスキャンドル祭り」が開催されます。

江戸時代から明治時代の面影を色濃く残す建築物が立ち並び、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されている「奈良井宿」は、冬の朝晩の冷え込みが厳しく、マイナス10度を下回ることもあります。

アイスキャンドル祭りは、この寒さを利用して地域を盛り上げようと地元有志により始まった催しです。情緒あふれる約１㎞のまち並みに、約2,000個の住民手作りのアイスキャンドルに火が灯され、幻想的な空間を醸し出します。豚汁のサービスや振る舞い酒など、心温まるサービスもありますので南伊豆町の皆さんも、ぜひ塩尻の冬の風物詩をご覧にお出掛けください。

日　時　２月３日(月)18:00頃～
問合せ　奈良井宿観光案内所
☎０２６４－３４－３１６０

戸籍の窓

結婚お幸せに

地区	お名前（旧姓）	婚姻日
湊	上澤和弥・優子（佐野）	11. 13
青市	髙橋毅晃・沙江（坂井）	11. 22

お悔やみ申し上げます

地区	氏　名	年齢	月　日
湊	小 野 歌 江	89	10. 31
青市	鈴 木 ト ミ	81	11. 11
石廊崎	小 澤 浩 之	66	11. 21
入間	萩 原 富 江	82	11. 23
湊	村 田 善 一	75	11. 23
石廊崎	渡 邉 吉 三	85	11. 27

平成25年11月１日から11月30日までに届出のあったもの(敬称略)
※このコーナーに掲載を望まない方は、戸籍届出の時にお申し出ください。

人の動き

（12月１日現在）
世帯数　3,979世帯
人　口　9,063人(－８)
男　4,312人　女　4,751人
（11月中）
転 入　16　　転 出　15
出 生　1　　死 亡　10

※住民基本台帳法の改正（平成24年７月９日）により、外国人も含んでいます。

１月は、町県民税、国民健康保険税、介護保険料、国民年金保険料の納付月です。

納期限内に忘れずに納めましょう。
税金・料金の納付は便利な口座振替で。
お申込みは、各金融機関窓口まで。

まちの人

伊豆半島ジオパークをより身近に！

ジオパーク認定ガイド
島　田　順　子さん（湊）

南伊豆町の景観等に魅かれて５年前に当町へ移住し、社会参加のつもりで南伊豆町ボランティアガイド協会へ加入し、現在では、伊豆半島ジオパーク推進協議会の認定ガイドとしての活動も続けています。

特に力を入れているのが、２年前に伊豆半島ジオパークガイド養成講座で認定を受けたジオガイドとしての活動です。

現在では、絵本「火山のおみやげ伊豆半島 - おかしに似ているよ」という著書を出版しました。この著書を出版したきっかけとして、子供たちの理科離れが多く聞かれる今だからこそ、難しい地層や地質の話であっても、なるべく柔らかくやさしく、お菓子に例えて話すことで、ジオパークをより身近に親しんでもらえたらと思いながら制作しました。

このような活動により、一人でも多くの方がジオパークに興味を持ってもらえることを願っています。

健康一口メモ

乳がん検診を受けましょう

乳がんは女性に一番多いがんで、40～50歳代をピークに発症や死亡が増加しており、日本人女性の15人に１人くらいが生涯で乳がんにかかる危険があるといわれています。

40歳以上の偶数年齢（※平成26年３月31日時点）の方を対象に、１月～２月にかけて乳がん検診を実施します。この機会にぜひ受診してください。また、検診を受ける年齢に達していなくても、入浴時等に自己触診を行い、異常がないか確認しましょう。もし、しこり・表面のくぼみ・ひきつれ・異常な分泌物等を発見したら、速やかに医療機関を受診することが大切です。

◆指で触る範囲：乳房の突出部分のみではなく、上は鎖骨、下は肋骨の弓側、内側は鎖骨の中央、外側は脇の下まで触るようにしましょう。

◆触り方：指でつままず、指の腹を小さく動かして滑らせるように触りましょう。

問合せ　健康福祉課　☎６２－６２３３

スマイルキッズ

妻良　小澤璃空（りと）くん　（１歳６か月）

「ぼく、いっぱい食べて大きくなって、
にいにに追いつくんだ！」

広報みなみいず　１月号

発行日／平成26年１月１日
発行／南伊豆町　編集／企画調整課　印刷／㈲サン印刷
〒415-0392 静岡県賀茂郡南伊豆町下賀茂315-1
TEL 0558-62-6288 FAX 0558-62-1119
ホームページ
http://www.town.minamiizu.shizuoka.jp/

編集後記

新年明けましておめでとうございます。
昨年は、色々な方に大変お世話になりました。
今年は、何事もうま(午)く行くように願いたいです。だ

広報みなみいずは、再生紙を利用しています。